

令和 8 年 9 月 7 日

6 年生保護者の皆様

稲美町立天満東小学校
校長 中 澤 陽 子

令和 8 年度全国学力・学習状況調査結果について

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、令和 8 年 4 月 23 日に「全国学力・学習状況調査」が、全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に実施されましたので、その結果をお知らせします。

国語は、県及び全国の結果とおおむね同程度の状況でした。一方、算数は、学習した内容の定着に課題が見られる部分がありました。

今回の結果は、児童一人ひとりの学習の状況を把握し、今後の授業づくりや学習指導の充実に生かしていくためのものです。結果のみによって学校や児童を順位づけたり、優劣を決めたりするものではありません。

本校では、調査結果を今後の教育活動に生かし、児童がこれまでに身に付けた力をさらに伸ばすとともに、学習内容の確実な定着につながる授業の工夫・改善に取り組んでまいります。

各教科の成果と課題については、以下のとおりです。

< 国 語 >

文章全体の構成や展開を考えて書く力が着実に育っています。基本的な配当漢字についても、正しく書くことができます。文章を書くことに前向きに取り組む児童が多いことも、本校児童のよさの一つです。

一方で、相手に分かりやすく伝えるために、理由や具体的な事例を挙げながら、話の中心を明確にして話す力には課題が見られました。また、自分の考えと、それを支える理由や事例との関係を捉えたり、情報と情報のつながりを整理したりすることも同様でした。さらに、図などを用いて語句と語句の関係を表す方法を理解して活用することや、目的に応じて必要な情報を見つけることについても、さらに力を伸ばしていく必要があります。

今後の指導では、「書き手が伝えたいことを知るために読む」「自分が知りたいことを調べるために読む」など、読む目的を明確にすることを大切にしていきます。その上で、文章や資料の中から目的に合った必要な情報を見つけ、必要な情報とそうでない情報を選び分けたり、情報同士の関係を整理したり、自分の考えに合わせて組み立て直したりする学習を充実させます。また、話したり書いたりする活動では、「自分の考え」だけでなく、「なぜそう考えたのか」という理由や具体的な事例を結び付けて伝えることを意識させ、相手に分かりやすく伝える力を育てるよう工夫します。

< 算 数 >

帯グラフの特徴を理解したり、簡単な問いであれば、誤っている項目を見つけたりする力は身に付いています。また、3枚のカードを使って最も大きな数をつくる問題や、四捨五入しておよその数（がい数）を表す問題、条件に合う時刻を読み取る問題など、基礎的な技能についても、概ね身に付いていました。

一方で、複数の観点からデータを分析し、整理された表から必要な情報を読み取ることには課題が見られました。また、ペンギンがいる2つの広場の「込み具合」を比べる問題では、単位量当たりの大きさを求める除法が何を表しているのかを理解し、その結果を問題の解決に生かすことに課題がありました。さらに、「もとにする量」「比べる量」「割合」の関係を捉えることや、問題文を読んで「何を求めるのか」を正しく理解し、必要な情報を取り出して数量の関係を整理することにも難しさが見られました。これらの結果から、計算の方法を身に付けるだけでなく、問題場面を図や表などに表し、数量の関係を整理しながら、どのように考えればよいのかを判断する力をさらに育てていく必要があると考えています。

今後も、計算の反復練習を大切にし、引き続き基礎的な計算力の定着を図る一方、データを集めて分類・整理し、目的に応じて適切な表やグラフを選んで表したり、そこから必要な情報を読み取ったりする学習を充実させていきます。さらに、日常生活の中にあるさまざまな問題を算数の視点から捉え、数量の関係に着目して考える力を伸ばしていきます。特に、「どれを基準にしているのか」「どれとどれを比べているのか」「どのくらいの割合なのか」といった関係を、図や式などを使って整理し、筋道を立てて考えられるよう指導します。その際には、答えが正しいかどうかだけでなく、図を描いたり、分かっていることを整理したりしながら、数量の関係を捉えようとする思考の過程を大切にします。間違いや試行錯誤も学びの一つとして受け止め、友達と考えを伝え合いながら、粘り強く問題を解決しようとする姿勢を育てるよう工夫します。

< 生活面 > ※ 顕著な項目を紹介します。

本校6年生は、基本的な生活習慣が身に付いており、日々の生活や学校生活の中で、幸せや楽しさを感じながら前向きに過ごしている児童が多いことが分かりました。また、「学校生活は楽しい」「人の役に立ちたい」「いじめはいけない」といった意識や、道徳科の学習で友達と話し合いながら学ぶことへの意欲も高い水準を保っています。これは、学校が子どもたちにとって安心して過ごせる居場所となっていること、そして、友達と関わりながら学び、協力する力が育っていることの表れだと考えています。道徳科の授業では、自分の考えを深めたり、友達と話し合ったりすることを楽しむ姿が見られました。自分とは異なる考えにも耳を傾け、「そういう考え方もあるんだ」と受け止めながら学ぶ姿も増えてきました。互いの考えを聞き、自分の考えを広げたり深めたりする「対話的な学び」も、着実に子どもたちの中に根付いてきています。

一方で、学習面では、今後さらに伸ばしていきたい課題も明らかになりました。PC やタブレットなどの ICT 機器の使い方については、文章を作成したり、インターネットから必要な情報を集めたりするなど、学習の目的に応じて活用する力が身に付いてきています。一方で、ICT を使って集めた情報を整理し、自分の学習に生かす力については、まだ伸ばしていく必要があります。また、SNS や動画を長時間利用する習慣についても課題が見られました。1 日に 4 時間以上利用している児童も多く、家庭での学習時間や睡眠、生活リズムへの影響が心配されます。学校でも、ICT を上手に活用する力だけでなく、時間や使い方を自分で考え、適切にコントロールする力を身に付けられるようにについても引き努力します。ご家庭でも、子どもたちの ICT 機器の使い方や生活リズムについて、一緒に考えていただければと思います。

さらに、「自分にはよいところがある」と肯定的に答えた児童は 8 割を超えました。多くの児童が自分のよさを認めることができていることは、大きな成果です。一方で、まだ自分のよさに気付くことができていない児童がいることも、大切に受け止め支援していきます。

また、本校 6 年生には、「学校で学んでいることは、将来、社会に出たときに役立つ」と考えている児童が多く、学ぶことの意味や将来とのつながりを意識しながら学習する姿が見られます。先行きが見えにくく、変化の大きい社会の中にあっても、本校の子どもたちは、日常の中にある幸せや楽しさを感じながら生活する力を持っています。これは、子どもたち自身の頑張りはもちろんのこと、日頃から学校教育にご理解とご協力をいただいている保護者の皆様、そして、子どもたちを温かく支えてくださっている地域の皆様のおかげです。図書ボランティアの皆様、スプーンおばさん、出前授業などで子どもたちに学びの機会を与えてくださる地域の皆様、毎朝、登下校時に子どもたちと挨拶を交わして下さる地域ボランティアの皆様、下校の見守りや朝の挨拶運動でお世話になっている児童委員や交通指導員の皆様など、多くの方々に支えていただいていることに、心より感謝申し上げます。

これからも、友達との関わりや日々の学習の中で、一人一人の頑張りや成長を認め合い、「できた」「分かった」「頑張った」と感じ合える場面を大切にしていきます。そうした積み重ねを通して、子どもたちが自分のよさや可能性に気付き、自信をもって自分らしく成長していけるよう、教職員一同、力を合わせて支援していきます。取り組んでまいります。そして、本校のスローガンである「自分を好きになる、ほかの人も好きになる、そして、一歩踏み出せ、東っ子」の実現に向けて、これからも全力で取り組んでまいります。